

異文化夫婦 日本とブラジル

Czank Thomas Rafael
(キザンキ トマス ラファエル)

出身国: ブラジル

私には福島県民の妻がいます。私が妻と出会ったのは友達と一緒にバーに行った日でした。毎週末のバー通いで、ナンパすることに慣れていましたが、実はそれまでの私達のナンパをする活動は長い間失敗の連続でした。だからちょっとシャイになっていました。その日、バーで私達が座った隣のテーブルに3人の女の子が来て座りました。女の子達が来て、おそらく20分くらい後に自衛隊さんがバーに（ナンパをするのために？）入って来ました。そして隣の女の子達のテーブルに近づきました。その時、隣の子達は突然私達の方に声をかけて来ました。私が妻と出会ったのはその瞬間でした。

コミュニケーショントラブル

私と妻は、出会ったばかりのころは、コミュニケーションが難しかったです。それは、私の日本語能力がまだ足りなかったのと、妻の英語能力も足りなかったからです。何回も辞書を使いながら、会話やケンカをしました。

結婚前の挨拶

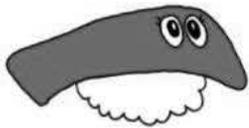
一緒に住んですぐ妻は、両親に結婚の挨拶をしに行きましようと言いました。私は気軽にOK!と言いましたが、妻はとても緊張しているようでした。サンパウロでは、両親に挨拶することは普通のことです。特別なことではありません。先に私の家族に妻を会わせて、最初の日にバーベキューパーティーをして楽しんだから、何も心配していませんでした。なので、いつも通りT-シャツ、短パン、ビーチサンダルで妻の実家に行きました。妻も特に注意はしませんでした。そして、実家に着くと義理の父が突然大きな声で「あんたの格好は何だ!!」と怒ったのです。義理の父は70歳でとても頑固な昭和の男でした。国際結婚は文化の違いにより離婚しやすいとよく言われます。確かに、私が「普通」と思っていることが、妻にはとてもショックだったりすることもありますし、その逆もあります。後は、日本には戸籍と言うシステムがありますがブラジルにはありません。そのため結婚するための手続きや妻の名前の変更、子供が生まれる時のミドルネームが出来ない問題等経験しています。会話やケンカをする時に途中で単語が足りなくて、難しく面倒な時でも、途中でやめなくて最後まで辞書を使って、翻訳したりして進む事が大切だと感じて実行しています。日本では私が外国人ですが、ブラジルに行ったら妻が外国人です。なので、自分が全部正しい! 当たり前! と思わないで、文化を理解して楽しみましょう。

学生委員会KEYSがインタビュー!!

おなまえ キザンキ トマス

出身国 ブラジル

しつもん1:あなたのそんけいする人は?



ママ

しつもん2:あなたの国でぜひ来てほしい場所は?

海岸

しつもん3:日本に来て驚いたことは?

敬語

しつもん4:恋しいことは何ですか?

(自分の国に帰ったらしたい事,食べたいものなど)

ブラジルの気楽な 雰囲気

ありがとうございます!!!

学生委員会KEYS一同